

さといも管理情報 No. 2

令和7年7月17日
アルプス農業協同組合
富山県富山農林振興センター

6月以降、高温乾燥が続いています。今後、いもの肥大を促進するため、うね間かん水等の実施をお願いします。

1 いもの肥大促進対策

(1) うね間かん水の実施

ア 実施時期

晴天が4日以上続く高温乾燥期（9月上旬まで）

イ 実施判断

日中の高温時（12:00～13:00）や夕方（17:00～18:00）又は、朝方（5:00～6:00）にはほ場を見回り、次のような状態が確認された場合は、うね間かん水を実施する。

時間帯	さといもの状態
日中の高温時	排水口付近の株の葉が巻き（図1）、葉柄が弓なりに反り、葉の裏側がみえる。うね間が白っぽく乾いている。
夕方	葉先の水孔から水滴が落ちない。
朝方	葉の上に水玉（図2）がみられない。



図1 乾燥時の葉の巻き



図2 朝方の葉の上の水玉

ウ かん水方法

- ・早朝又は、夕方の気温が低く涼しい時間帯にかん水する。
- ・まず、排水口を閉めてから、水口を開いて、うね間に通水する。
- ・うね高の1／3程度まで水をため（図3）、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を閉め、速やかに排水口を開けて落水する。

（裏面に続く）

※事前にかん水・排水がスムーズに行えるように、うね間の除草や排水溝の手直しを行う。

※かん水後、マルチの中に手を入れて、水が十分に行き届いているか確認する。十分でなければ、次回から湛水期間を長くする、又は、鍬でうね側面のマルチに1 m間隔で穴をあけ、マルチ内に水がしみこむようにする。

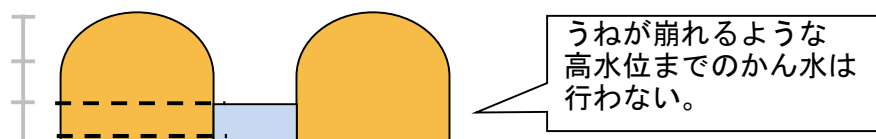


図3 うね高の1／3程度までの水位

(2) 追肥

- ・うね間が湿っている時に「硫酸加里」を20kg/10a 施用する。
- ・8月までに追肥を終了する。

○熱中症対策について

- ・農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

2 害虫対策

ほ場を見回り、害虫の発生がみられる場合は、下表の薬剤をローテーション散布してください。(展着剤加用)

なお、薬害防止のため、薬剤散布は朝又は夕方の涼しい時間帯に行ってください。

薬剤名	対象害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数	RAC コード
コテツフロアブル	カンザワハダニ ハスモンヨトウ	2,000 倍	収穫7日前まで	2回	13
エルサン乳剤	ハスモンヨトウ	1,000 倍	収穫7日前まで	1回	1 B
	アブラムシ類	1,000～ 2,000 倍			
アディオン乳剤	アブラムシ類 ハスモンヨトウ スズメガタ類	2,000 倍	収穫7日前まで	5回	3 A
マイトコーネフロアブル	ハダニ類	1,000 倍	収穫3日前まで	1回	20 D
ハクサップ水和剤	ハスモンヨトウ	2,000 倍	収穫3日前まで	5回	3 A、1 B
ディアナSC	セスジスズメ ハスモンヨトウ	2,500～ 5,000 倍	収穫前日まで	2回	5



アブラムシ類



ハダニ類



ハスモンヨトウ

(裏面に続く)

【無人航空機による散布の場合】

薬剤名	対象害虫	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	RACコード
プレバシプロアブル5	ハスモンヨトウ	20 倍	1～2L/10a	収穫前日まで	3 回	28
アケセルフロアブル	ハスモンヨトウ	10 倍	1～1.6L/10a	収穫前日まで	3 回	22B
		20 倍	2～3.2L/10a			
モベントフロアブル	アブラムシ、ハダニ類	8 倍	0.8～1.2L/10a	収穫 7 日前まで	3 回	23
		12 倍	1.6L/10a			
		24 倍	3.2L/10a			
アドマイヤー 顆粒水和剤	アブラムシ類	80 倍	1.6～2L/10a	収穫 14 日前まで	2 回	4A
		200 倍	2～4L/10a			
		400 倍	4～10L/10a			

○農薬の登録確認・飛散防止について

- ・農薬散布に当たっては、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物や住宅に薬剤が飛散しないように十分注意してください。

【問い合わせ先】

アルプス農業協同組合営農部 営農企画課

TEL:076-472-5480

富山県富山農林振興センター 園芸振興班 担当:金森 TEL:076-444-4523